



グローバル人材の育成に 取り組んでいます

中高一貫教育校
熊本県立八代高等学校・中学校

本校ではグローバル時代を生き抜く力の育成を目標の1つにしています。その中でいろいろな取組を行っていますが、今回は、2つの取組を紹介させていただきます。

即興型英語ディベートの授業

即興型ディベートとは、その場で議論し合う「題目」を与えられ、2つのチームが下調べをしないでわずかな時間の打合せをして、お互いに英語で議論し合うゲームです。論理的な考え方や実践的な英語力を身に付けるためには非常に役に立ちます。本校では中学3年生から高校1年生の期間に実施しています。「すべての中学生は部活動に入るべきである」とか「大学入



試の受験生には彼氏・彼女がいたほうがいい」などの身近なテーマを題目にして楽しく議論します。どちらのチームも審判を納得させようと一生懸命で、大盛り上がりです。先日行われた授業では、他の高校や中学校の先生方に授業の様子を参観していただきました。

審判への一生懸命なアピールに、相手や味方のチームもみんな真剣に聞き入っています。

英語ビブリアバトルの授業

「ビブリアバトル」とは、自分が読んで面白かった本を、他の大勢の前でいかに面白かったかを紹介し、一番紹介が上手な人を競うゲームです。その英語版



が「英語ビブリアバトル」です。「本」の紹介者は、どのように紹介すれば面白さが伝わるかを真剣に考え、英語で紹介します。紹介の後には聞いていた人が質問をしますので、その質問に答えなければなりません。もちろん英語です。この授業は、中学1～2年生の間に日本語によるビブリアバトルを実践し、中学2年生の3学期から中学3年生までは英語で行われます。



珍質問も出て、答えに大爆笑の場面もあり、楽しく盛り上がります。

英語ビブリアバトルで紹介する本は図書館の洋書コーナーで探します。

地域とともにある学校づくりを進めています

玉中総合教育会議【目指される玉中・熟議】

～地方創生を目指したコミュニティ・スクール(CS)の取組～

玉名市立玉名中学校

「地域とともにあるコミュニティ・スクール」を生かした学校自治のために、学校運営協議会と生徒会役員が一緒になって「玉中総合教育会議」を開催。年間4回の会議では、教育ビジョンを共有し、学校と地域が連携・協働できる方策を熟議します。生徒会と運営協議会メンバーが直接話し



合うことで、地域の課題と学校の課題を共有するだけでなく、生徒の意識も主体的になっています。目指すのは「次世代の人材育成＝地方創生」です。

これまで、地域の要望に応える形で、校区内にある荒れ果てた花壇整備を園芸委員会が引き受けたり、まちづくり(たまな未来カフェ)の話し合いに参加・交流したりすることで、意識も高まりました。逆に、生徒会からの要望で、読み聞かせのコラボレーションを計画するなど回を重ねる毎に熟議が深まっています。

※詳細は玉名中学校HPを参照願います。
(<http://jh.higo.ed.jp/tamanajh/>校長室より)



地域からの要望に応じて荒れた花壇を園芸委員会が整備

7人の子どもに60人の地域サポーター

～地域とともにある学校～

上天草市立湯島小学校



学校と保護者と地域で環境整備

天草・島原の乱の計画が話し合われたことから「談合島」と呼ばれる上天草市大矢野町湯島。世帯数200程のこの島で、地域とともにある学校づくりが始まっています。

平成27年度、保護者や地域の方々と連携・協働して、子どもたちの成長を支えていく学校の仕組み「熊本版コミュニティ・スクール」が発足。そこで、できた組織が①学習支援、②環境整備、③安心安全の3つの部会からなる「ゆしま教育会議(学校運営協議会)」です。授業でのゲストティーチャー、「湯島キッズ教室」(就学前教育の充実)の開校、地域の声かけ・挨拶運動、学校の環境整備(職員と保護者が少なく大助かり)等、活動されています。特徴的なのは、子どもたちを見守る学校応援団の数。「ゆしま教育会議」のキーパーソンであるコーディネーターの松尾秀和さんと小野拓さんが地域に声をかけ、協力者を60人集められました。7人の子どもたちに60人の地域サポーターの誕生です。

今年、天草五橋開通50周年の年でした。天草五橋開通のために尽力された森慈秀さんのふるさと湯島で、今、未来を切り拓く教育が行われています。



読み聞かせ(命の大切さ)



生長を地域の方と一緒に